

令和5年度

学校評価（自己評価）

学校関係者評価 報告書

- (1) 学校評価の考察……………p. 1
- (2) 保護者アンケートの結果と考察……………p. 6
- (3) 児童アンケート(生活)の結果と考察……………p. 10
- (4) 児童アンケート(学習)の結果と考察……………p. 15
- (5) 教職員アンケートの結果と考察……………p. 19
- (6) 保護者・児童・教職員の比較結果……………p. 25
- (7) 学校関係者評価の結果と考察……………p. 28

【学校評価】

| | | | |
|-----------|-----------------------|---------|--------------------|
| 実施日 | 令和5年12月1日(金)～12月6日(水) | | |
| アンケート調査数等 | 保護者 | 251/382 | 回答率 65.7% (ウェブ調査) |
| | 児童 | 462/486 | 回答率 95.0% (質問紙票) |
| | 教職員 | 33/33 | 回答率 100.0% (ウェブ調査) |

【学校関係者評価】

| | | | |
|-----|-------------|---------|-----------------|
| 実施日 | 令和6年2月8日(水) | | |
| 評価者 | 学校評議員 | 江澤 孝明 氏 | 渡辺 佳那 氏 勘定 友和 氏 |
| | 保護者 | 秋葉 麗 | P T A会長 |
| | 教職員 | 永野 真仁 | 校長 関 智之 教頭 |
| | | 磯野 弘典 | 教諭 |
| 形態 | 質問紙票 | | |

一宮町立一宮小学校

令和6年2月

令和5年度学校評価（自己評価）の考察

1 本校の目指す児童像から

～笑顔あふれ、本気で頑張る一宮っ子～

(1) きまりを守りやさしくできる子ども（笑顔）

～一人一人の児童が他者と関わり合いながら、気持ちよく生活できる学校づくりに努めます～

児童は学校生活を通して、様々な人と出会い、関わり合う中で人間関係を形成していく。他者と関わり合いながら様々な活動をしていく学校において、すべての児童がよりよい人間関係の中で生活できる環境にしていくことはとても重要なことである。そのために学校では、教育活動全体を通して、自分だけでなく相手を大切に思う心を育成し、いじめのない学校・学級づくりをしていくことに力を入れるとともに、児童一人一人が笑顔で過ごせるように、教育相談体制を充実させ、児童理解に努めているところである。

また、集団生活をしていく中で、きまりは必要不可欠であり、きまりを守ることは、みんなが気持ちよく社会生活を送っていく上での基本である。小学校段階においては、きまりの重要性を認識し、しっかりと守ることができる態度を身に付けさせていく必要があり、教職員は日々児童の指導に当たっている。

児童（生活）の設問1～4は、友人関係やいじめについての設問である。学校生活の中では、グループやペアなど、人と関わり合いながら取り組む活動が多いこともあり、協力することの必要性については、多くの児童が実感できていると考えられる。関わり合っていく対象との人間関係がよければ、取組の成果も大きいと感じ取れていることと考える。それにもかかわらず、設問2「いじめや言葉の暴力など、他人の嫌がることはしない」、設問4「誰に対しても、乱暴な言葉は使わないようにしている」について否定的な回答をしている児童が約1割いることは問題視すべき点である。

「いじめ」については、いじめ防止対策推進法において「児童生徒に対して、当該児童生徒が在籍する学校に在籍している等当該児童生徒と一定の人的関係にある他の児童生徒が行う心理的又は物理的な影響を与える行為（インターネットを通じて行われるものを含む）であって、当該行為の対象となった児童生徒が心身の苦痛を感じているもの」と定義されている。つまり、加害者側にとっては「わるふざけ」や「ちょっかい」であって「いじめ」ではないと思って行った行為であっても、その行為を受けた側が心身の苦痛を感じ、いじめられたと捉えれば、「いじめ」となる。このことについては、児童に対して何度も伝えており、「いじめ」を受けた者の苦しみや、「いじめ」は絶対にいけない行為であることも繰り返し訴えてきた。このことは、教職員（学校）の設問8「いじめに対して全校で取り組み、いじめのない学校づくりに努力している」において、全教職員が肯定的な回答をしていることからもうかがい知ることができる。しかしながら、保護者の設問12「本校は、いじめに対して全校で取り組み、いじめのない学校づくりに努力している」についての肯定的な回答は、77%に留まっている。いじめに対する取組が十分ではないと考える保護者が、約2割いることを重く受け止めなければならない。

学校では、日々の児童観察に加え、「Q-Uアンケート」や、2か月に1回実施している「学校生活アンケート」、教育相談等を活用し、人間関係の把握やいじめ・不安などの早期発見・早期対応に努めている。しかし、それ以上に大切なのが日々の教育活動全体を通じての児童一人一人の心の育成である。他の者を大切に、思いやる心を育むためには、相手が嫌な気持ちに

なる行為を具体的に示し、どのような行いをすればよいのかを考えさせることももちろん大切であるが、一人一人の児童の心が自己存在感や自己有用感などで満たされるようにしていくことも重要である。自分の心が満たされている児童は、周りにいる者に対して優しくなれると考える。教職員からはもとより、個々の児童が相互に認め合い、励ましたり褒めたりできる機会を教育活動の中に多くもつことにより、豊かな心の育成に力を入れていきたい。

次に、きまりを守ることにについてである。きまりを守らなくてはならないことは、学校教育に限らず、家庭生活においても指導されているため、ほとんどの児童は認識しているものと考ええる。また、児童（生活）の設問8「学校や学級のきまりやルールは守っている」については、93%の児童が肯定的な回答をしており、きまりを守ることに対する意識の高さがうかがえる。その他、授業開始時間や掃除の取組など、細かなきまりとしていくつかアンケート項目に入れているが、ほとんどの項目で肯定的な回答が9割を超えている。きまりを守れない児童がいる以上、集団の秩序を維持し、児童全員が気持ちよく学校生活を送ることができるよう、指導し続けていく責務がある。自分の思うままに、きまりを守らずに生活することによって、嫌な思いをしたり、被害を被ったりする者がいるということや、時には自分自身が損をしてしまうことなどを繰り返し指導していくとともに、きまりを守って生活していることをみんなで認め、褒めることのできる集団づくりをしていくことが大切であると考ええる。

(2) 進んであいさつができる子ども（あいさつ）

～「いつでも どこでも だれにでも」自然な気持ちであいさつができる児童の育成に努めます～

「あいさつ」は、よりよい人間関係を構築する上で基本的な行為の一つである。児童自身も自分があいさつをしたのに相手がしなかったことで、嫌な気分になった経験がきっとあることと思う。同じあいさつをするにしても、表情や声の大きさ、また、どちらが先にあいさつをしたかななどによっても、相手の印象が異なる。「あいさつ」は、ほんの短い言葉であるが、自分自身を表現するとても大切な言葉である。だからこそ、学校では「あいさつ」に力を入れ、児童に指導をしているところである。

「あいさつ」については、保護者の84%が肯定的な回答をしており、これは昨年度より4%増加している。児童の肯定的な回答は88%であり、昨年度と同様であった。教職員の肯定的な回答は55%であり、昨年度より10%高くなっている。気持ちのよいあいさつを学校として重点として取り上げている以上、さらに多くの児童が「いつでも どこでも だれにでも」自然な気持ちであいさつができるよう、今後も力を入れて指導をし続けていきたい。

学校では、生活委員会の児童が「あいさつ」を呼びかける「あいさつ運動」や、教職員が率先して「あいさつをする」などの取組に加え、昨年度より「あいさつ賞」を新設して学期ごとにあいさつのよい児童を表彰し、子どもたちの意識を向上させるように取り組んでいる。出すことのできる声の大きさが個によって異なることは当然のことであるが、相手に聞こえてこそそのあいさつである。少し意識をするだけで、相手への印象が変わることを伝えるとともに、あいさつの仕方の変化を認め、褒めていきながら、よりよいあいさつができるよう改善を図っていきたい。

(3) いっしょうけんめいに勉強する子ども（本気）

～どの子も「できた」喜びを味わえる指導に努めます～

学力向上は児童、保護者ともに望んでいることである。学力を向上させるには、日々の授業を充実させることが必須であり、教員・学校はそれに向けて努力していく責務を負っている。授業内容が児童の興味・関心を引いたり、自分自身で、または友達と関わり合いながら思考を深めたり、できた喜びを味わえたりできるものでなければ、児童は一生懸命に取り組もうとは

しない。児童が一生懸命に取り組んだことで、できた喜びを味わうことができれば、学ぶことに対して自ら価値を見だし、授業だけでなく学校以外の場でも様々なことを学ぼうとする意欲が高まっていく。そのような児童を育てるべく、児童の指導に日々当たっているところである。

児童（学習）の設問1「学校でこれまで勉強したことは理解できている」は90%、設問9「学校の授業は楽しくわかりやすい」は89%が肯定的な回答をしている。約9割以上の児童が授業自体を肯定的に捉え、学習内容を理解している。しかし、約1割の児童が否定的な回答をしていることを受け止め、わかる授業の実現に向けて取り組んでいきたい。教職員アンケート（学校）設問3「子ども一人一人の習熟度・定着度を意識して授業を展開している」の肯定的な回答が90%を占めていることからわかるように、教職員も手ごたえを感じているところである。

また、教員の授業力をより一層向上させていくことも重要である。教職員アンケート（学校）設問2「学習課題を明確にした、課題解決型授業を心がけている」の肯定的な回答が100%という結果からもわかるように、全教員がこれらのことを意識した授業づくりを行っている。しかし、保護者の設問4「本校は、子どもの学力を伸ばそうと努力している」では肯定的な回答の割合が72%であり、昨年度と比較して4%減少している。今後も、児童にとって「わかる授業」をすることができるよう、教員が自ら学んでいく姿勢、また、複数の教員同士で学び合っていく姿勢をもち続け、授業力向上に向けて取り組んでいく必要がある。

児童の授業への取組の様子については、児童（学習）の設問5「授業中に進んで発表するなど、積極的に参加している」で69%、設問6「授業中におしゃべりをしないで取り組んでいる」では、肯定的な回答が79%に留まった。発表については間違えることへの不安感により、ためらってしまう児童もいる。間違えることを恐れずに「発言してよかった」と実感できるような授業づくりをし、誰もが安心して発言できる学級の雰囲気形成していく必要がある。

学習への意欲化を図る上で、目標をもたせることも大切である。設問7「一宮タイムでは、出された課題に一生懸命に取り組んでいる」では93%の児童が肯定的な回答をしていた。今年度、一宮タイム（朝自習）に算数の学習やタブレットの活用、読み聞かせを取り入れた。今後も学習内容を工夫し、児童のやる気を引き出しながら基礎となる学力の向上を目指していきたい。

児童（学習）の設問9「勉強でわからないことがあるときに、友達に質問している」は、肯定的な回答が81%、設問10「勉強でわからないことがあるときに、先生に質問している」の肯定的な回答は73%である。わからないところをそのままにしない児童の意識の高揚と、児童が質問できる場の工夫や質問しやすい雰囲気づくりに努めたい。

児童（学習）の設問11「家で、宿題など家庭学習にしっかり取り組んでいる」の肯定的な回答は90%と、昨年度より5%増加している。学習内容の定着に家庭学習は欠かせない。今後も課題の工夫と児童の取組状況の把握を継続し、児童の意識の高揚に努め、家庭と連携して取り組んでいきたい。

2 学校運営から

(1) 安全への配慮について

～登下校時の安全指導の徹底と地域社会との連携を推進します～

児童を家庭から預かっている学校において、児童の安全を確保することは大変重要である。学校生活を送る上で、校内での安全な過ごし方について指導することはもちろんだが、登下校時の安全確保に向けた指導も大切である。

以前より下校時の安全確保に向けては、保護者や地域に協力を仰ぎながら様々な対策を講じ

てきた。そのこともあってか、本校の安全面への取組における保護者の肯定的な回答の割合は86%と高い評価を受けている。登校時においても、PTA校外補導部や一宮商業高等学校生徒、学校支援ボランティア、一宮町交通安全協会、地域の区長や地区社教の方々に協力いただき、安全指導を実施している。

登下校時においては、交通事故や不審者など、校舎内以上に命に関わる大きな事故が起りかねない。引き続き登下校時の安全確保に向けた児童への指導を重視していきたい。

また、通学路の危険箇所については、今年度も町当局とともに現場踏査を行い、改善要求をしている。登下校時の児童の歩行態度については、問題発生時には即座に指導するとともに、学級活動や地区児童会等で、繰り返し安全な過ごし方について指導していきたい。道路の歩行・横断等については、地域の方々から注意喚起の要望も寄せられている。今後も、児童の安全指導の充実に家庭・地域社会と連携して推進していきたい。

不審者対策としては、校舎内に不審者が侵入したことを想定し、不審者対応避難訓練を実施した。いつ、児童の命を危険にさらす状況になるかはわからない。教職員として、児童の命を守るという強い意識を、引き続き持ち続けていきたい。

(2) 学校行事について

～児童が活躍できる場としての学校行事を実施していきます～

学校では、教科の授業だけでなく、学級活動やクラブ活動、委員会活動、そして学校行事といった特別活動も行われており、これらに対しても児童は一生懸命に取り組んでいる。授業ではなかなか活躍できなくても、特別活動においてとても頑張っている児童もいる。

児童（生活）の設問14「運動会やその他の行事に一生懸命に取り組んでいる」の肯定的な回答は97%と、高い割合を示している。保護者の設問10「本校は、楽しく意義ある行事（運動会や校外学習等）を実施しようと努力している」の肯定的な回答は92%と、昨年度から11%増加している。本年度は、新型コロナウイルス感染症の感染症法5類移行に伴い、人数制限をせずに学校行事は実施したためと考える。

今後は、児童が活躍できる場としての学校行事を考え、その目的を達成できるように実施方法を工夫し、実り多いものとなるようにしていきたい。

(3) 家庭・地域社会との連携について

～迅速・丁寧な対応に努め、より一層の連携を推進します～

児童の教育を行っていくにあたっては、学校だけでなく、家庭や地域との連携が大切である。それぞれの立場で児童に目を向け、よりよい方向性を模索し、実行していくことが、児童の成長につながると考える。

保護者の設問9「本校は、家庭との連絡や連携に努力している」では87%、教職員（学校）の設問5「保護者・地域との連携を意識して行動している」は97%が肯定的な回答であり、どちらも評価が高い。学級担任は、児童一人一人を大切にされた対応と家庭への報告・連絡・相談に努め、誠意をもって丁寧に対応するよう心がけている。学習指導の面でも、生徒指導の面でも家庭と連携することは、児童の成長を促す上で効果的である。学校と家庭が連携することなく、全く異なる方向性を児童に示してしまった場合、最も困るのはその児童である。それは避けなければならない。教育相談を決められた日時だけでなく、必要に応じて行うことを通して、児童に対して求める姿を共通認識し、それぞれの立場でどのようにアプローチしていくのがよいのかをじっくりと話し合うことが大切である。

学校の情報発信については、保護者に児童の学校での様子を知らせるため、学校行事等の様子や写真を、学校だよりやホームページ等で発信している。しかし、保護者の設問11「本校は、各種たよりやホームページ等で、学校の様子を保護者や地域に伝えようと努力している」

の肯定的な回答は83%と、昨年度とほぼ同様の結果となっている。本年度は11月からホームページの運営方法が変更になったことが影響していると考えられる。また、新しい情報や至急お知らせしたい情報については、引き続き学校安全・安心メールを活用しながら、積極的に発信していきたい。

地域社会との連携の一つとして、学校支援ボランティアの方々には、登下校の安全指導等をお願いしている。また、外部講師や外部支援員の方々に、書き初め指導・歯磨き指導・思春期教室・福祉体験教室・租税教室・薬物乱用防止教室等で協力していただいている。

学校において地域連携は、今後、より一層重要視されている。引き続き、地域の方々と連携をしながら、児童にとって意義ある活動をつくっていきたい。

3 終わりに

～全ての児童が楽しい学校生活を送れるように努力します～

保護者の設問1「お子さんは、学校に行くのを楽しみにしている」では、87%が肯定的な回答をしている。しかし、否定的な回答をした保護者も13%いることを、重く受け止めなければならない。

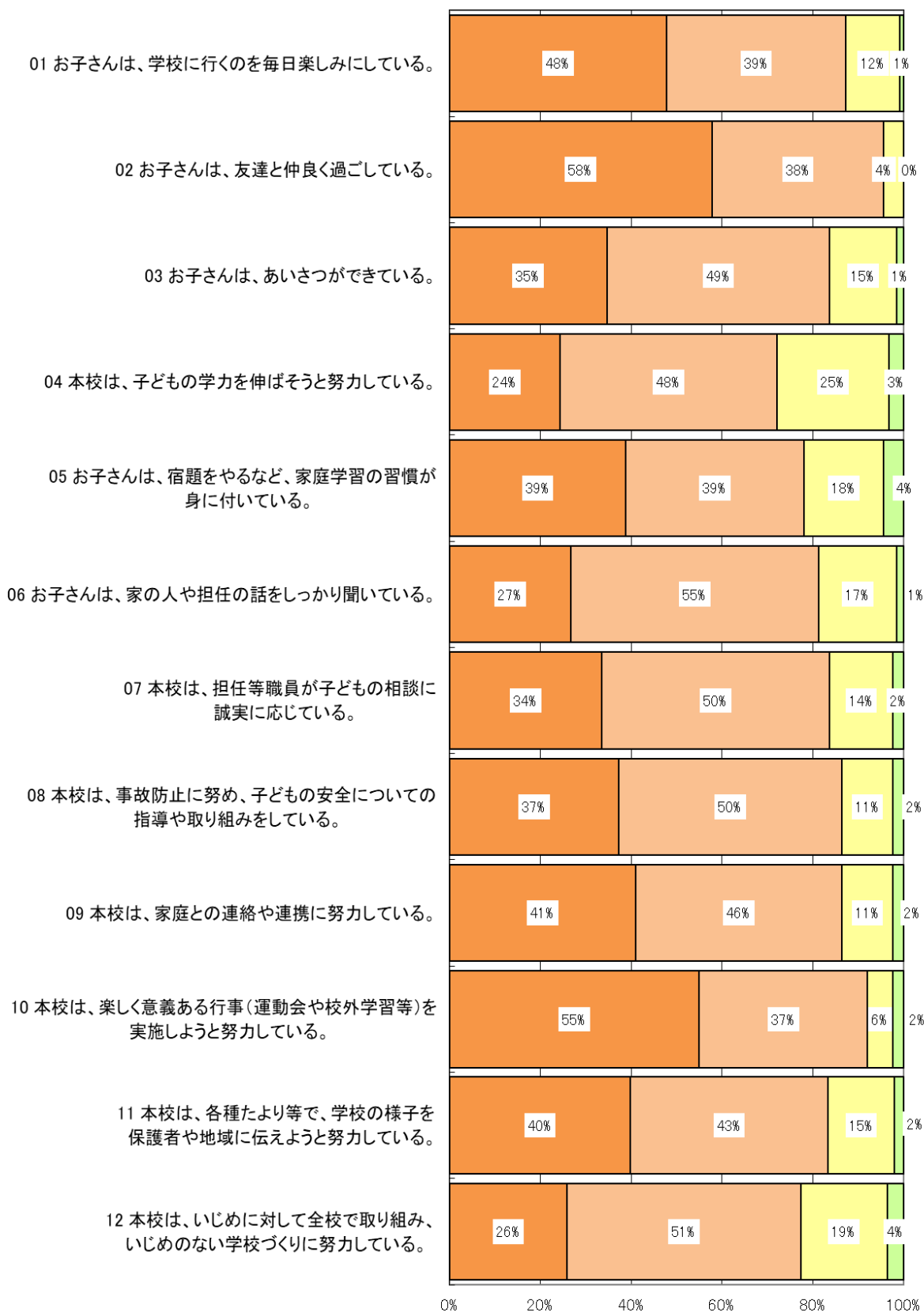
学校生活に対して自分の子どもがどう考えているのかについて、子どもの話す内容や表情などで読み取っている保護者は多いと考える。学校では様々な教育活動が行われる。学校という場が「楽しい」と全ての児童が言えるようになることを目指し、引き続き、教育活動の工夫とともに、児童の観察をしっかりと行い、問題には迅速・丁寧に対処していきたい。

今回の評価を、学校及び教職員として自己の教育活動を振り返るよい機会としてとらえ、次年度の教育活動に生かしていきたい。

令和5年度 保護者アンケート

令和5年12月6日実施 回収 251 回収率 65.7%

■ そう思う
 ■ ややそう思う
 ■ あまりそう思わない
 ■ そう思わない



令和5年度 保護者アンケート考察

△上昇 ▼下降

A（そう思う・ややそう思う） B（あまりそう思わない・そう思わない）

| No. | 設 問 | 4年度 | | 5年度 | | A評価の前年比 |
|--|--------------------------|-----|-----|-----|-----|---------|
| | | A | B | A | B | |
| 1 | お子さんは、学校に行くのを毎日楽しみにしている。 | 84% | 16% | 87% | 13% | +3 △ |
| <p>肯定的な回答は、昨年度より3ポイント増加している。児童が毎日楽しく学校生活を送っているかどうかは、保護者が最も気になる点であると考え。保護者の評価は、児童の家庭内での発言や様子から受けた率直な印象であり、否定的な回答をされた家庭においては、心配な点などについて、ぜひご連絡いただきたい。</p> <p>全児童が楽しい学校生活を送れるよう、学校教育活動全体のさらなる充実に努め、児童にとって魅力ある学校づくりをしていきたい。また、学校においても児童の微妙な変化にいち早く気付けるよう、日常観察や学校生活アンケートなどを通して、児童理解をより一層充実させていきたい。</p> | | | | | | |

| No. | 設 問 | 4年度 | | 5年度 | | A評価の前年比 |
|---|---------------------|-----|----|-----|----|---------|
| | | A | B | A | B | |
| 2 | お子さんは、友達と仲良く過ごしている。 | 92% | 8% | 96% | 4% | +4 △ |
| <p>肯定的な回答は、昨年度より4ポイント増加しており、9割を超えていることから、友人関係については良好と考えている保護者がほとんどであることがわかる。上記の設問1で肯定的な回答とする要素の一つとして、友人関係の充実が挙げられる。引き続き、友達と協力して仲良く過ごせる学級の雰囲気づくりに心がけていきたい。</p> <p>一方、児童間で全くトラブルがないわけではない。友人関係は突然変化することもあるため、その認識を忘れることなく、児童の状況把握に努め、淋しい思いをしている児童がいないかを日々注視し、支援・指導していきたい。</p> | | | | | | |

| No. | 設 問 | 4年度 | | 5年度 | | A評価の前年比 |
|--|--------------------|-----|-----|-----|-----|---------|
| | | A | B | A | B | |
| 3 | お子さんは、あいさつができています。 | 80% | 20% | 84% | 16% | +4 △ |
| <p>肯定的な回答が昨年度より4ポイント増加したが、教職員の評価（55%）と差があることから、本校の大きな課題である。児童の肯定的な回答も88%であり、保護者と同様に高いが、交通安全ボランティアの方々に対するあいさつする児童が少ないなどの声もあり、校外での意識も変える必要がある。</p> <p>あいさつは人と関わり合う中で基本的な行動である。してもされても気持ちのよい言葉であること、したとしても相手に聞こえないと受け入れてもらえないことなどを心に留めさせ、教職員が率先垂範し、「いつでも・どこでも・だれにでも」を合言葉に、具体的な指導を繰り返していきたい。</p> | | | | | | |

| No. | 設 問 | 4年度 | | 5年度 | | A評価の前年比 |
|--|-------------------------|-----|-----|-----|-----|---------|
| | | A | B | A | B | |
| 4 | 本校は、子どもの学力を伸ばそうと努力している。 | 76% | 24% | 72% | 28% | -4 ▼ |
| <p>肯定的な回答は、昨年度と比較して4%減少している。学力向上については、児童も保護者も学校に対し大きく求めているところであり、さらなる評価の向上が望まれる項目である。</p> <p>わかる授業を充実させるとともに、新学習指導要領で示されている「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善を通して、学力向上を図っていきたい。また、個の能力に応じた支援にも心がけていきたい。</p> | | | | | | |

| No. | 設 問 | 4年度 | | 5年度 | | A評価の前年比 |
|---|--------------------------------|-----|-----|-----|-----|---------|
| | | A | B | A | B | |
| 5 | お子さんは、宿題をやるなど、家庭学習の習慣が身に付いている。 | A | B | A | B | +3 △ |
| | | 75% | 25% | 78% | 22% | |
| <p>肯定的な回答は、昨年度と比較して3ポイント増加しているが、児童の肯定的な回答は90%であり、保護者との間に開きがある。</p> <p>家庭学習については、学年に応じた学習時間の目安「学年×15分」を示し、学年ごとに宿題内容を吟味し、習慣化を図っているところである。</p> <p>家庭学習を行う児童とそうでない児童では、学習内容の習得状況に差が生じるとの文部科学省の調査結果は知られているところである。家庭での学習が、宿題だけに留まっている児童も多いため、さらに意識を高めるよう声かけをしていきたい。</p> | | | | | | |

| No. | 設 問 | 4年度 | | 5年度 | | A評価の前年比 |
|--|---------------------------|-----|-----|-----|-----|---------|
| | | A | B | A | B | |
| 6 | お子さんは、家の人や担任の話をしっかり聞いている。 | A | B | A | B | +3 △ |
| | | 79% | 21% | 82% | 18% | |
| <p>肯定的な回答は、昨年度と比較して3ポイント増加している。ここ数年で徐々に上昇が見られる項目である。</p> <p>「話を聞く」態度をしっかりとれることは、社会生活においても学習においても基本となることである。何と言ったかを聞き直したり、聞いたことについてどう思ったかを聞いたりするなど、きちんと聞いていないとわからないことを実感させる場面をつくり、聞くことの大切さについて全職員による指導の徹底に努めたい。</p> | | | | | | |

| No. | 設 問 | 4年度 | | 5年度 | | A評価の前年比 |
|--|----------------------------|-----|-----|-----|-----|---------|
| | | A | B | A | B | |
| 7 | 本校は、担任等職員が子どもの相談に誠実に応じている。 | A | B | A | B | +1 △ |
| | | 83% | 17% | 84% | 16% | |
| <p>肯定的な回答は、昨年度と比較して1ポイント増加しているが、本来、100%の評価を目指さなければならない項目であるため、真摯に受け止めていきたい。</p> <p>学校では「学校生活アンケート」を2か月に1回実施し、児童個々が抱える問題や悩み等を把握し、速やかに状況を聴き取り相談に応じるようにしている。また相談箱を設置し、投函されたものについては直接相談を受けている。</p> <p>しかし、児童の中には、アンケート等に記載したり、実際に相談したりすること自体を拒否している者もいるかもしれない。児童との信頼関係がとても大切である。日頃から教職員が児童の話をじっくりと聞くよう意識を高め、児童が話しやすい雰囲気づくりをするとともに、休み時間等に児童が気軽に話しかけられる場を意図してつくり、信頼関係を深めるよう心がけていきたい。</p> | | | | | | |

| No. | 設 問 | 4年度 | | 5年度 | | A評価の前年比 |
|--|--------------------------------------|-----|-----|-----|-----|---------|
| | | A | B | A | B | |
| 8 | 本校は、事故防止に努め、子どもの安全についての指導や取り組みをしている。 | A | B | A | B | -2 ▼ |
| | | 89% | 11% | 87% | 13% | |
| <p>本設問の肯定的な回答の割合は87%と、昨年度から若干低下したものの高い評価を受けている。登校時において、PTA校外補導部や一宮商業高等学校生徒、学校支援ボランティア、一宮町交通安全協会、地域の区長や地区社教の方々に協力いただき、安全指導を実施している。今後も保護者や地域と協力体制を築き、児童の登下校時の安全確保に努めたい。</p> <p>不審者対策としては、校内に不審者が侵入したことを想定し、不審者対応避難訓練を実施した。いつ、児童の命を危険にさらす状況になるかはわからない。教職員として、児童の命を守るといふ強い意識を、引き続き持ち続けていきたい。</p> | | | | | | |

| No. | 設 問 | 4年度 | | 5年度 | | A評価の前年比 |
|---|-----------------------|-----|-----|-----|-----|---------|
| | | A | B | A | B | |
| 9 | 本校は、家庭との連絡や連携に努力している。 | A | B | A | B | +3 △ |
| | | 84% | 16% | 87% | 13% | |
| <p>肯定的な回答は、昨年度と比較して3ポイント増加している。学校教育では、学校と家庭との信頼関係に伴う連携が不可欠である。教職員は家庭との連携を密にしようと、連絡帳や電話、家庭訪問により保護者と連絡を取り合ったり、教育相談で学校や家庭での様子について情報交換をしたりしている。連絡の不備により、信頼関係を失うことがないように、引き続き、密に連絡を取り合うようにしていきたい。</p> <p>また、保護者からの相談・要望に対しては真摯に受け止め、対応することが可能なものは丁寧かつ速やかに対応するよう心がけていく。</p> | | | | | | |

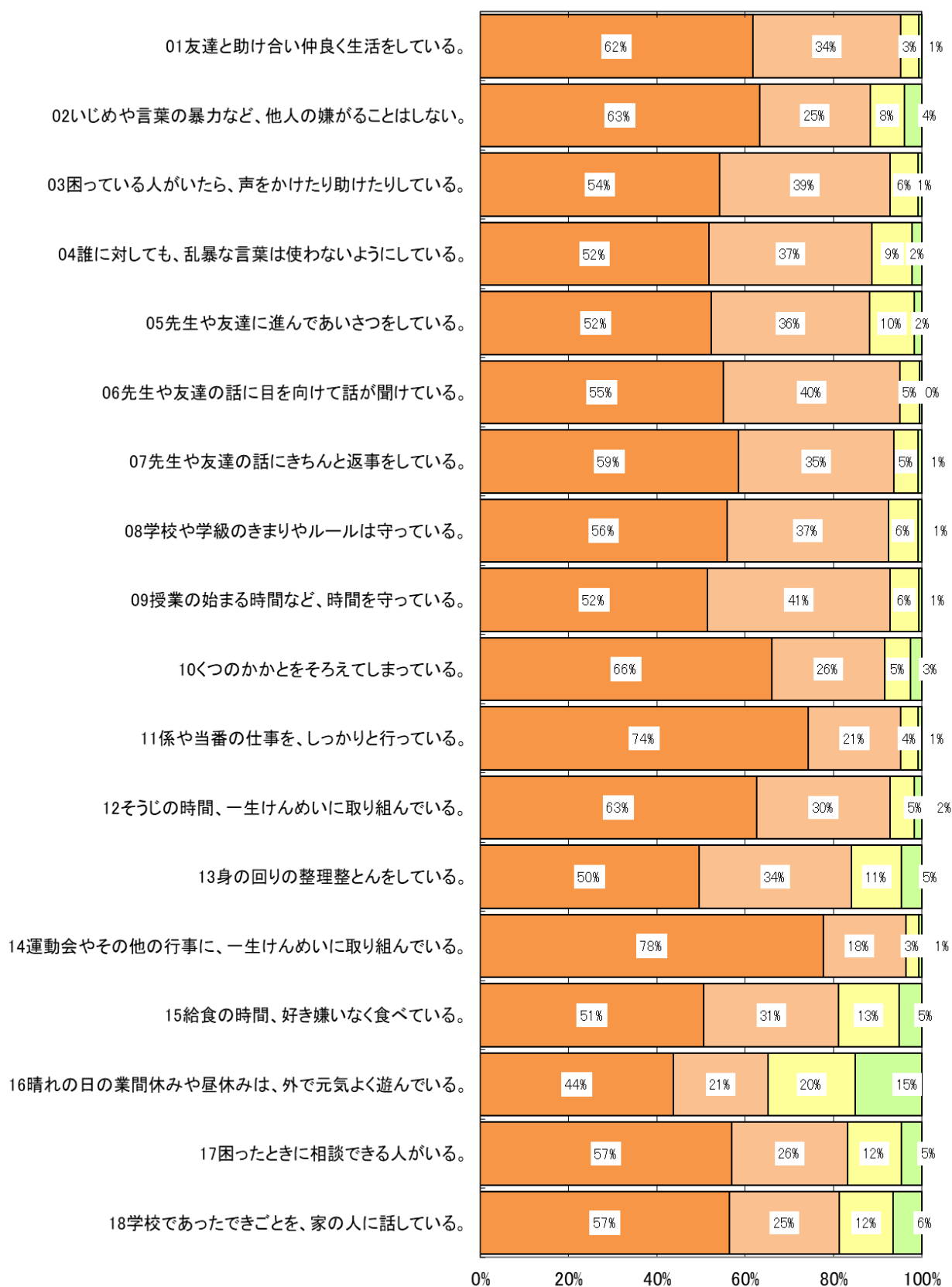
| No. | 設 問 | 4年度 | | 5年度 | | A評価の前年比 |
|---|--|-----|-----|-----|----|---------|
| | | A | B | A | B | |
| 10 | 本校は、楽しく意義ある行事（運動会や校外学習等）を実施しようと努力している。 | A | B | A | B | +11 △ |
| | | 81% | 19% | 92% | 8% | |
| <p>肯定的な回答は、昨年度と比較して11ポイント増加している。今年度、新型コロナウイルス感染症の5類移行に伴い、人数制限をせずに学校行事を実施してきた結果であると考え。児童が活躍できる場としての学校行事を考え、その目的を達成できるように実施方法を工夫し、実り多いものとなるよう、引き続き努力していきたい。</p> | | | | | | |

| No. | 設 問 | 4年度 | | 5年度 | | A評価の前年比 |
|--|--|-----|-----|-----|-----|---------|
| | | A | B | A | B | |
| 11 | 本校は、各種たよりやホームページ等で、学校の様子を保護者や地域に伝えようと努力している。 | A | B | A | B | +1 △ |
| | | 82% | 18% | 83% | 17% | |
| <p>肯定的な回答は、昨年度とほぼ同じであった。学校の情報発信については、保護者に児童の学校での様子を知らせるため、学校行事等の様子や写真を、学校だよりやホームページ等で発信している。</p> <p>新しい情報や至急お知らせしたい情報については、引き続き学校安全・安心メールを活用しながら、積極的に発信していきたい。</p> | | | | | | |

| No. | 設 問 | 4年度 | | 5年度 | | A評価の前年比 |
|--|--|-----|-----|-----|-----|---------|
| | | A | B | A | B | |
| 12 | 本校は、いじめに対して全校で取り組み、いじめのない学校づくりに努力している。 | A | B | A | B | -3 ▼ |
| | | 80% | 20% | 77% | 23% | |
| <p>肯定的な回答は、昨年度と比較して3ポイント減少している。本来、100%の評価を目指すなければならない項目であるため、真摯に受け止めていきたい。いじめ問題については、上記設問1及び2に関連し、保護者の方々が大変心配していることと考えている。学校としても重要事項として臨んでいるが、約1割の保護者が否定的な回答をしていることから、十分な指導体制ではないと受け止めたい。</p> <p>いじめについては様々な機会を通じて児童に話し、絶対にしてはいけないことを伝えてきた。いじめは、早期発見、早期対応はもちろん大切であるが、いじめの状況を生み出さないように未然防止することが重要である。学校生活全体を通じた、日々の教育活動を充実させることが、いじめのない学校づくりにつながると考える。</p> <p>今後もしじめ防止に向けて、教職員が積極的に児童へ働きかけるように心がけていきたい。</p> | | | | | | |

令和5年度 児童アンケート(生活)
令和5年12月4日実施 回収 462 回収率 95.0%

■ そう思う ■ ややそう思う ■ あまりそう思わない ■ そう思わない



令和5年度 児童アンケート（生活）考察

△上昇 ▼下降

A（そう思う・ややそう思う） B（あまりそう思わない・そう思わない）

| No. | 設 問 | 4年度 | | 5年度 | | A評価の前年比 |
|-----|--------------------|-----|----|-----|----|---------|
| | | A | B | A | B | |
| 1 | 友達と助け合い仲良く生活をしている。 | 92% | 8% | 96% | 4% | +4 △ |

肯定的な回答は、昨年度より4ポイント増加している。学校生活の中では、グループやペアなど、人と関わり合いながら取り組む活動が多いこともあり、協力することの必要性を実感しているものと考えられる。

下記の設問3～4では、本設問に比べて肯定的な回答が若干増えている。みんなが「助け合い、仲良く生活する」ためには、どのようなことに心がけて生活していけばよいのかについて児童に問いかけ、自分の行動を振り返らせていく必要がある。

| No. | 設 問 | 4年度 | | 5年度 | | A評価の前年比 |
|-----|---------------------------|-----|-----|-----|-----|---------|
| | | A | B | A | B | |
| 2 | いじめや言葉の暴力など、他人の嫌がることはしない。 | 89% | 11% | 88% | 12% | -1 ▼ |

肯定的な回答は、昨年度とほぼ同じであった。「わるふざけ」「ちょっかい」「悪口」も相手が「いじめ」と捉えれば「いじめ」であること、そして、いじめは絶対にいけないことを繰り返し伝えてきた。「いじめ」と考えられる行為と自覚しながらも行っている児童が相変わらずいることは引き続きの課題である。どのような行為が「いじめ」であるのか、そしてそのような行為をしてはいけないことを繰り返し指導していく必要がある。

いじめの早期発見に向けては、学校生活アンケートを2か月に1回実施したり、個別面談を行ったりしているが、それだけで完全に把握できるとは言いきれない。より一層、個々の児童の様子に注意を払うとともに、個別の相談に応じ、いつでも相談できる雰囲気づくりに努めていく。また、保護者との連携も大切にし、いじめ発見後は迅速な対応により早期解決するとともに、繰り返すことのないよう指導していく。

| No. | 設 問 | 4年度 | | 5年度 | | A評価の前年比 |
|-----|----------------------------|-----|-----|-----|----|---------|
| | | A | B | A | B | |
| 3 | 困っている人がいたら、声をかけたり助けたりしている。 | 90% | 10% | 93% | 7% | +3 △ |

肯定的な回答は、昨年度より3ポイント増加している。「困っている人がいたら、声をかけたり助けたりする」ということは、道徳の授業などを通して、ほとんどの児童は認識している。しかし、実際に行動に移すことについては困難に感じている児童がいることも読み取れる。自分が困っているときに助けてもらった経験を想起させたり、小さなことでもよいから自分にできることについて考えさせたりする機会を設けるとともに、よい行いをしたり、考えたりできた児童を認め、励ましていくことで、自信をもたせていきたい。

| No. | 設 問 | 4年度 | | 5年度 | | A評価の前年比 |
|-----|---------------------------|-----|-----|-----|-----|---------|
| | | A | B | A | B | |
| 4 | 誰に対しても、乱暴な言葉は使わないようにしている。 | 88% | 12% | 89% | 11% | +1 △ |

肯定的な回答は、昨年度とほぼ同じであった。設問2とも関連し、「いじめ」の一つとして言葉による暴力がある。乱暴な言葉により友達を傷つけることがあることについては、引き続き全体指導し続けるとともに、そのような場面を見たり聞いたりしたときには速やかに個別指導を行っていく。

児童の言葉遣いについては、周囲の人の言葉遣いの影響を受ける場合が多い。これは児童間だけでなく、教職員や保護者などの大人の言葉遣いも同様である。児童の周囲の言語環境を整えるよう、教職員として自覚するとともに、家庭への協力も依頼していく必要がある。

| No. | 設 問 | 4 年度 | | 5 年度 | | A 評価の前年比 |
|--|---------------------|------|-----|------|-----|----------|
| | | A | B | A | B | |
| 5 | 先生や友達に進んであいさつをしている。 | 88% | 12% | 88% | 12% | ±0 = |
| <p>生活委員会や代表委員会が「あいさつ運動」を実施していることもあり、昨年度と同様に児童の意識は高い。しかし、教職員の評価（55%）は最も低くなっており、児童の意識とは大きな開きがある。継続して指導しないと「自ら進んで」とはいかない現状である。気持ちのよいあいさつの大切さを意識させ、よいあいさつができた児童には称賛し自信をもたせたい。昨年度より、「あいさつ賞」を新設して、学期ごとにあいさつのよい児童を表彰し、称賛する機会をもった。これにより、他の児童の意識も変わってきている。</p> <p>教職員も率先してあいさつをする姿を見せ、あいさつの輪を広げていきたい。</p> | | | | | | |

| No. | 設 問 | 4 年度 | | 5 年度 | | A 評価の前年比 |
|---|-----------------------|------|----|------|----|----------|
| | | A | B | A | B | |
| 6 | 先生や友達の話に目を向けて話が聞けている。 | 91% | 9% | 95% | 5% | +4 △ |
| <p>肯定的な回答は、昨年度より4ポイント増加しているが、教職員の肯定的な回答は62%であり、児童との間に大きな開きがある。</p> <p>児童の思いとしては肯定的だが、話を聞く最中に手いたずらやよそ見、時にはおしゃべりをするなど、集中して聞くことができていない姿を実際に目にする。「人の話は目で聞く」ことについては、あらゆる場面において、引き続き全教職員で指導をしていきたい。</p> | | | | | | |

| No. | 設 問 | 4 年度 | | 5 年度 | | A 評価の前年比 |
|---|----------------------|------|-----|------|----|----------|
| | | A | B | A | B | |
| 7 | 先生や友達の話にきちんと返事をしている。 | 90% | 10% | 94% | 6% | +4 △ |
| <p>肯定的な回答は、昨年度より4ポイント増加しており、9割を超える高い評価である。児童に返事をきちんとさせることに、全ての教職員が高い意識をもって指導してきたことの表れであると考えられる。</p> <p>今後もあいさつ指導と併せて、継続指導をしていきたい。</p> | | | | | | |

| No. | 設 問 | 4 年度 | | 5 年度 | | A 評価の前年比 |
|--|----------------------|------|----|------|----|----------|
| | | A | B | A | B | |
| 8 | 学校や学級のきまりやルールは守っている。 | 94% | 6% | 93% | 7% | -1 ▼ |
| <p>児童の肯定的な回答は、昨年度とほぼ同じであるが、教職員の評価（76%）との間に開きがある。学校には様々なルールがあり、それらを守るにより集団生活が成り立っている。きまりやルールは守らなければいけないことは多くの児童が認識しているところである。</p> <p>しかし、廊下の歩行の仕方など、ルールを守れていないことが多々あるのが現状である。様々な学校教育活動の場面において、児童の発達段階に応じ、ルールの遵守について指導を繰り返していく必要がある。</p> | | | | | | |

| No. | 設 問 | 4 年度 | | 5 年度 | | A 評価の前年比 |
|---|----------------------|------|-----|------|----|----------|
| | | A | B | A | B | |
| 9 | 授業の始まる時間など、時間を守っている。 | 90% | 10% | 93% | 7% | +3 △ |
| <p>児童の肯定的な回答は、昨年度より3ポイント増加していることに加え、教職員の肯定的な回答が80%であることから、徐々に改善が見られる項目である。</p> <p>日常生活から5分前行動を意識して行動できるように声をかけていきたい。教職員自身も時間が守れないこともあるため、学校全体で時間に対する意識向上を図っていきたい。</p> | | | | | | |

| No. | 設 問 | 4年度 | | 5年度 | | A評価の前年比 |
|---|------------------|-----|----|-----|----|---------|
| | | A | B | A | B | |
| 10 | 靴のかかとを揃えてしまっている。 | 91% | 9% | 92% | 8% | +1 △ |
| <p>肯定的な回答は昨年度とほぼ同じで高い設問である。 本項目については、重点的な指導事項として全教職員が継続的に指導していることもあり、靴箱を見ると、おおむねきれいに靴がそろえられている。このことについては、声かけがゆるむと崩れてしまうため、今後も継続して指導していきたい。</p> | | | | | | |

| No. | 設 問 | 4年度 | | 5年度 | | A評価の前年比 |
|---|----------------------|-----|----|-----|----|---------|
| | | A | B | A | B | |
| 11 | 係や当番の仕事を、しっかりと行っている。 | 93% | 7% | 95% | 5% | +2 △ |
| <p>肯定的な回答は、昨年度より2ポイント増加しており、9割を超える高い評価である。この項目については、児童も職員も肯定的な回答の割合が高い。自分の役割を認識し、積極的に取り組もうという気持ちが育ってきている。今後も意識的に児童の頑張っている姿を認め、励ましながら、活動への意欲化を図っていきたい。</p> | | | | | | |

| No. | 設 問 | 4年度 | | 5年度 | | A評価の前年比 |
|---|---------------------|-----|----|-----|----|---------|
| | | A | B | A | B | |
| 12 | 掃除の時間、一生懸命に取り組んでいる。 | 91% | 9% | 93% | 7% | +2 △ |
| <p>肯定的な回答は、昨年度より2ポイント増加しており、9割を超える高い評価である。清掃も係や当番活動と同様に、一生懸命に取り組んでいる児童が多い。 設問11と同様に、意識的に児童の頑張っている姿を認め、励ましながら意欲化を図っていく。また、掃除の仕方（ほうきの使い方や床の拭き方等）をしっかりと教えること、細かく指示し具体的な目標（ここからここまで拭いたら終わり等）をもたせること、取組状況を担当者が毎日確認することを意識して指導をしていきたい。</p> | | | | | | |

| No. | 設 問 | 4年度 | | 5年度 | | A評価の前年比 |
|---|-----------------|-----|-----|-----|-----|---------|
| | | A | B | A | B | |
| 13 | 身の回りの整理整頓をしている。 | 86% | 14% | 84% | 16% | -2 ▼ |
| <p>肯定的な回答は、昨年度より2ポイント減少しており、どの学級にも自分の持ち物を整理できない児童が見られるのが現状である。 身の回りの整理整頓など基本的な生活習慣については、家庭の役割が大きい。改善のためには、家庭と連携して取り組んでいくことが重要であると考え。 また、教室に誰かの落とし物があってもそれに気付かないのか、または拾おうとしないのか、教員が気付くまでそのままになっていることもある。自分の物でなくても、気付いて拾ってあげることで育ってほしい児童を育てていきたい。</p> | | | | | | |

| No. | 設 問 | 4年度 | | 5年度 | | A評価の前年比 |
|--|---------------------------|-----|-----|-----|----|---------|
| | | A | B | A | B | |
| 14 | 運動会やその他の行事に、一生懸命に取り組んでいる。 | 88% | 12% | 96% | 4% | +8 △ |
| <p>肯定的な回答は、昨年度より8ポイント増加している。実際に児童の一生懸命な姿を目にする。自分のため、みんなのために全力を尽くそうという意識をもち、今後も取り組んでほしいと思う。また、行事を通して培った力を、日頃の学校生活にいかせるように繋げていきたい。</p> | | | | | | |

| No. | 設 問 | 4年度 | | 5年度 | | A評価の前年比 |
|-----|--------------------|-----|-----|-----|-----|---------|
| | | A | B | A | B | |
| 15 | 給食の時間、好き嫌いなく食べている。 | 79% | 21% | 82% | 18% | +3 △ |

肯定的な回答は、昨年度より3ポイント増加している。多くの児童は給食を楽しみにし、バランスよく食事をしている。しかし、8割を下回っていることは課題としてとらえなければならない。

給食は、様々な食材に触れる機会となるが、偏食気味で、嫌いなものを食べずに残す児童も見られる。量を調節するなど、少しでもよいので食することができるようにしながら食の改善を図りたい。児童の健康のために、家庭にも協力していただけるとより効果的と考える。

| No. | 設 問 | 4年度 | | 5年度 | | A評価の前年比 |
|-----|-----------------------------|-----|-----|-----|-----|---------|
| | | A | B | A | B | |
| 16 | 晴れの日の業間休みや昼休みは、外で元気よく遊んでいる。 | 67% | 33% | 65% | 35% | -2 ▼ |

肯定的な回答は、昨年度より2ポイント減少している。今年度から業間休みと昼休みのグラウンド使用における制限をなくし、全校一斉に使用できるようにした。

外遊びが好きな児童もいれば、室内で本を読んだり、絵を描いたり、友達と話したりすることを好む児童がいるのは仕方ないことであるが、体づくりに必要な「栄養・休養・運動」を確保する上で、できるだけ外で遊んで運動できるように仕向けていきたい。

| No. | 設 問 | 4年度 | | 5年度 | | A評価の前年比 |
|-----|------------------|-----|-----|-----|-----|---------|
| | | A | B | A | B | |
| 17 | 困ったときに相談できる人がいる。 | 86% | 14% | 83% | 17% | -3 ▼ |

肯定的な回答は昨年度より3ポイント減少している。心配事を一人で抱え込み、相談できない児童がいることは大変気になるところである。困ったときには、教職員に限らず、保護者や友達など、誰でもよいから相談した方が自分自身にとってよいことを引き続き伝えていきたい。

学校では、日常の児童観察や学校生活アンケート等を通して、児童の様子の変化を捉え、教職員の方から声をかけていくよう心がけたい。また、普段の教育活動を充実させることを通して、児童との間に共感的人間関係を形成し、児童から信頼される教職員となるよう、意識を高めていきたい。

家庭で児童が悩み等を訴えたときには、その解消に向けて連携して対応していけるよう、協力をお願いしたい。

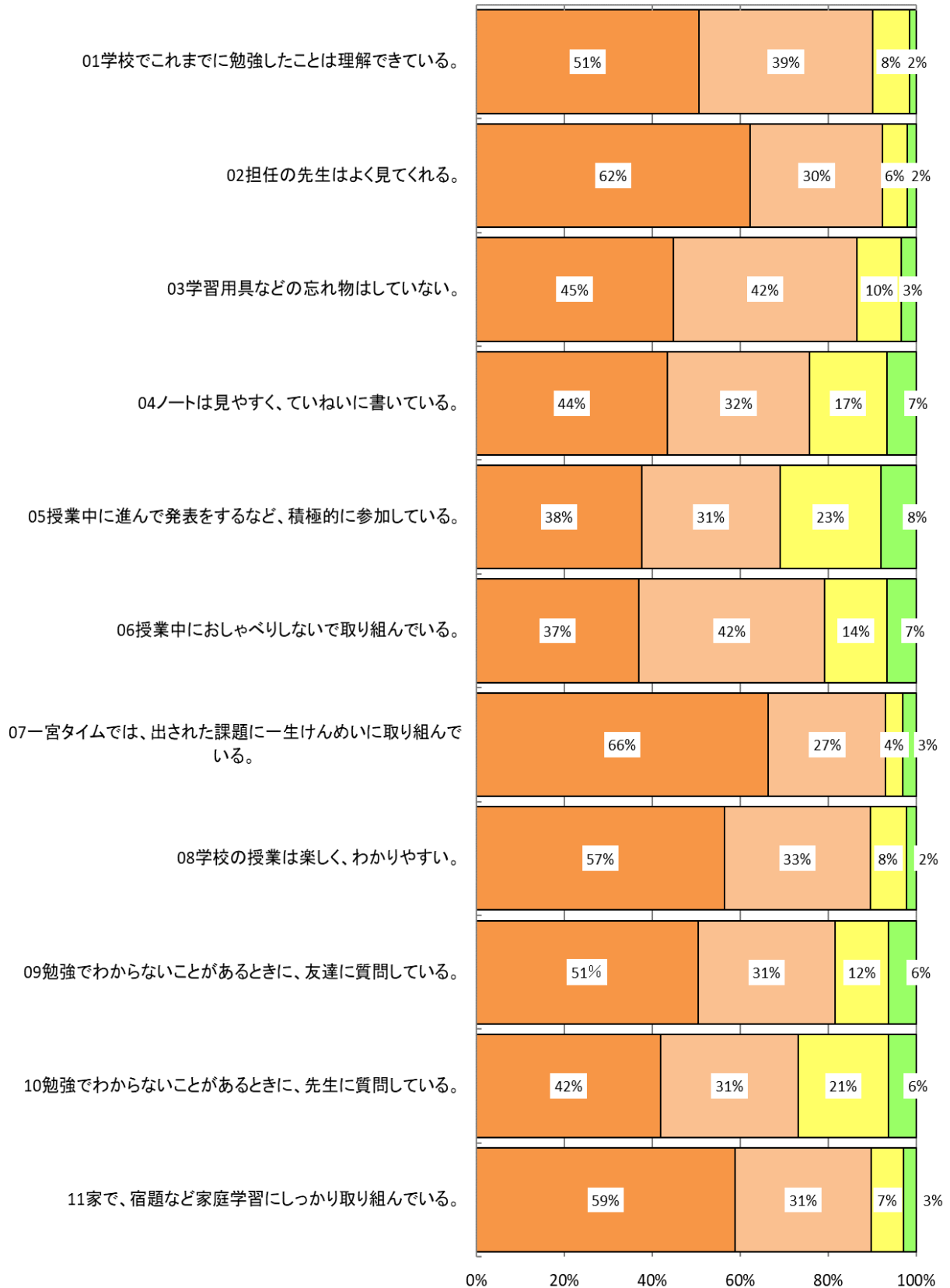
| No. | 設 問 | 4年度 | | 5年度 | | A評価の前年比 |
|-----|-----------------------|-----|-----|-----|-----|---------|
| | | A | A | A | B | |
| 18 | 学校であった出来事を、家の人に話している。 | 81% | 19% | 82% | 18% | +1 △ |

肯定的な回答は、昨年度とほぼ同じであった。

学年が上がってくると、「聞かれれば話す、自分からは話さない。」という児童も増えてくる。話したくなったときに安心して話せる関係が大切である。上記の設問17にも関連して、大切なことや困ったことなどは話せる家庭であってほしいと願うところである。

令和5年度 児童アンケート(学習)
令和5年12月4日実施 回収 462 回収率 95.0%

■ そう思う ■ ややそう思う ■ あまりそう思わない ■ そう思わない



令和5年度 児童アンケート（学習）考察

△上昇 ▼下降

A（そう思う・ややそう思う） B（あまりそう思わない・そう思わない）

| No. | 設 問 | 4年度 | | 5年度 | | A評価の前年比 |
|-----|------------------------|-----|-----|-----|-----|---------|
| | | A | B | A | B | |
| 1 | 学校でこれまで勉強したことは理解できている。 | 85% | 15% | 90% | 10% | +5 △ |

肯定的な回答は、昨年度より5ポイント増加している。概ね多くの児童が学習内容を理解できていると考えていることがうかがえる。

日頃の授業を充実させることはもとより、学習に遅れがある児童をどう引き上げるかは常に課題となっているところである。

個別指導について、今年度は高学年の算数科を中心に、複数の教員による授業を実施することができた。学習内容の定着に向け、引き続き課題意識をもって取り組むたい。

| No. | 設 問 | 4年度 | | 5年度 | | A評価の前年比 |
|-----|----------------|-----|-----|-----|----|---------|
| | | A | B | A | B | |
| 2 | 担任の先生はよく見てくれる。 | 88% | 12% | 92% | 8% | +4 △ |

肯定的な回答は、昨年度より4ポイント増加している。可能な範囲で児童の実態に応じた日々の個別指導をしており、一定の評価は得られているが、まだ不十分な点があることがうかがえる。

否定的な回答もあるため、授業中の声かけやノート指導など、全児童にとって励ましになるような働きかけを、これまで以上に心がけたい。

| No. | 設 問 | 4年度 | | 5年度 | | A評価の前年比 |
|-----|-----------------|-----|-----|-----|-----|---------|
| | | A | B | A | B | |
| 3 | 学習用具などの忘れ物はしない。 | 83% | 17% | 87% | 13% | +4 △ |

肯定的な回答は、昨年度より4ポイント増加している。依然として、忘れ物をする児童がいる。

「学習用具などの忘れ物をしない」ということは、学習する上での基本となる。忘れ物の多い児童は固定化している傾向があり、忘れ物のために十分に学習できないことで、学力低下を招くことも考えられる。忘れ物をしたときの困り感を実感させ、本人の意識を高めていくとともに、家庭と連携を図っていく必要がある。

| No. | 設 問 | 4年度 | | 5年度 | | A評価の前年比 |
|-----|--------------------|-----|-----|-----|-----|---------|
| | | A | B | A | B | |
| 4 | ノートは見やすく、丁寧に書いている。 | 79% | 21% | 76% | 24% | -3 ▼ |

肯定的な回答は、昨年度より3ポイント減少している。学習内容の確実な定着のためには、ノート指導の充実が欠かせない。

児童はよいノートのイメージをもつことが難しいため、よく書かれている児童のノートを実際に見せて紹介するなどし、具体的にイメージできるようにしていく。また、教職員も丁寧な板書を心がけるとともに、授業の中で児童が落ち着いてノートづくりができる時間配分や板書の量なども、児童の発達段階に応じて調整を図っていく必要がある。

| No. | 設 問 | 4年度 | | 5年度 | | A評価の前年比 |
|-----|----------------------------|-----|-----|-----|-----|---------|
| | | A | B | A | B | |
| 5 | 授業中に進んで発表をするなど、積極的に参加している。 | A | B | A | B | +1 △ |
| | | 68% | 32% | 69% | 31% | |

肯定的な回答は、昨年度とほぼ同じであった。特に、高学年の方が否定的な回答の割合が増加する傾向にある。

発表については、「間違えたらどうしよう」という不安感が心を制御してしまう。間違ふことを恐れずに、誰もが安心して発言することができる学級の雰囲気づくりが大切である。それには、「発言してよかった」「自分の（または友達の）発言により深まった」と実感できるような授業づくりをしていく必要がある。児童に興味・関心をもたせ、「学びたい」「学んで楽しい」という気持ちをもたせる授業になるよう、日々の実践・研究に努めていきたい。

| No. | 設 問 | 4年度 | | 5年度 | | A評価の前年比 |
|-----|------------------------|-----|-----|-----|-----|---------|
| | | A | B | A | B | |
| 6 | 授業中におしゃべりをしないで取り組んでいる。 | A | B | A | B | +5 △ |
| | | 74% | 26% | 79% | 21% | |

肯定的な回答は、昨年度より5ポイント増加している。児童自身は、おしゃべりをしてしまっている自覚があるようで、少しではあるが改善傾向にある。

おしゃべりをしていると授業に集中して話を聞くことはできない。それでは学力の向上は望めない。授業中に必要な対話とおしゃべりの違いを認識させるとともに、授業中のおしゃべりは自分の学習だけでなく周囲の児童の学習の妨げになることも、その都度しっかりと指導していく必要がある。

| No. | 設 問 | 4年度 | | 5年度 | | A評価の前年比 |
|-----|------------------------------|-----|-----|-----|----|---------|
| | | A | B | A | B | |
| 7 | 一宮タイムでは、出された課題に一生懸命に取り組んでいる。 | A | B | A | B | +4 △ |
| | | 89% | 11% | 93% | 7% | |

肯定的な回答は、昨年度より4ポイント増加しているおり、高い評価である。学級担任は登校後、すぐに課題に取り組めるように工夫しており、一生懸命に取り組んでいる児童がたいへん多い。本校では「一宮タイム」として、朝のドリル学習の時間を確保し、学習の習慣化を図っている。

よい習慣が定着してきているので、さらに充実した時間にし、児童の学力向上に役立てていきたい。

| No. | 設 問 | 4年度 | | 5年度 | | A評価の前年比 |
|-----|-------------------|-----|-----|-----|-----|---------|
| | | A | B | A | B | |
| 8 | 学校の授業は楽しく、わかりやすい。 | A | B | A | B | +8 △ |
| | | 82% | 18% | 90% | 10% | |

肯定的な回答は、昨年度より8ポイント増加している。学年によって若干の差はあるものの、どの学年も約9割の児童が肯定的な回答をしている。授業内容を理解することが困難な児童にとってもわかる喜びを味わわせられるよう、可能な範囲で個別指導したり、補助教材を活用したりするなど、引き続き工夫をしていきたい。

楽しく、わかりやすい授業づくりをしていくことは教員の責務であることを自覚し、今後も日々の教材研究等に取り組んでいく。

| No. | 設 問 | 4年度 | | 5年度 | | A評価の前年比 |
|---|-----------------------------|-----|-----|-----|-----|---------|
| | | A | B | A | B | |
| 9 | 勉強でわからないことがあるときに、友達に質問している。 | A | B | A | B | +4 △ |
| | | 78% | 22% | 82% | 18% | |
| <p>肯定的な回答は、昨年度より4ポイント増加している。高学年の方が肯定的な回答が多い傾向にある。</p> <p>学習指導要領に示されている「主体的・対話的で深い学び」の実現に向け、学年が上がるにつれて、ペアやグループで意見交換し合う場を意図的に多く設定するなどの工夫をしていることが、このような結果につながっていると考える。引き続き指導方法を工夫し、児童が相互に学び合い、共に伸びようとする意識を高めていきたい。</p> | | | | | | |

| No. | 設 問 | 4年度 | | 5年度 | | A評価の前年比 |
|--|-----------------------------|-----|-----|-----|-----|---------|
| | | A | B | A | B | |
| 10 | 勉強でわからないことがあるときに、先生に質問している。 | A | B | A | B | +1 △ |
| | | 72% | 28% | 73% | 27% | |
| <p>肯定的な回答は、昨年度とほぼ同じであった。肯定的な回答が8割を下回っている状況は、教職員側が反省すべき点である。</p> <p>上記設問9で「友達にも質問していない」児童が「先生にも質問していない」となると、学習内容の理解は難しい。児童と教員のよりよい人間関係を構築することはもとより、いつでも質問できる雰囲気づくりに心がける必要がある。</p> | | | | | | |

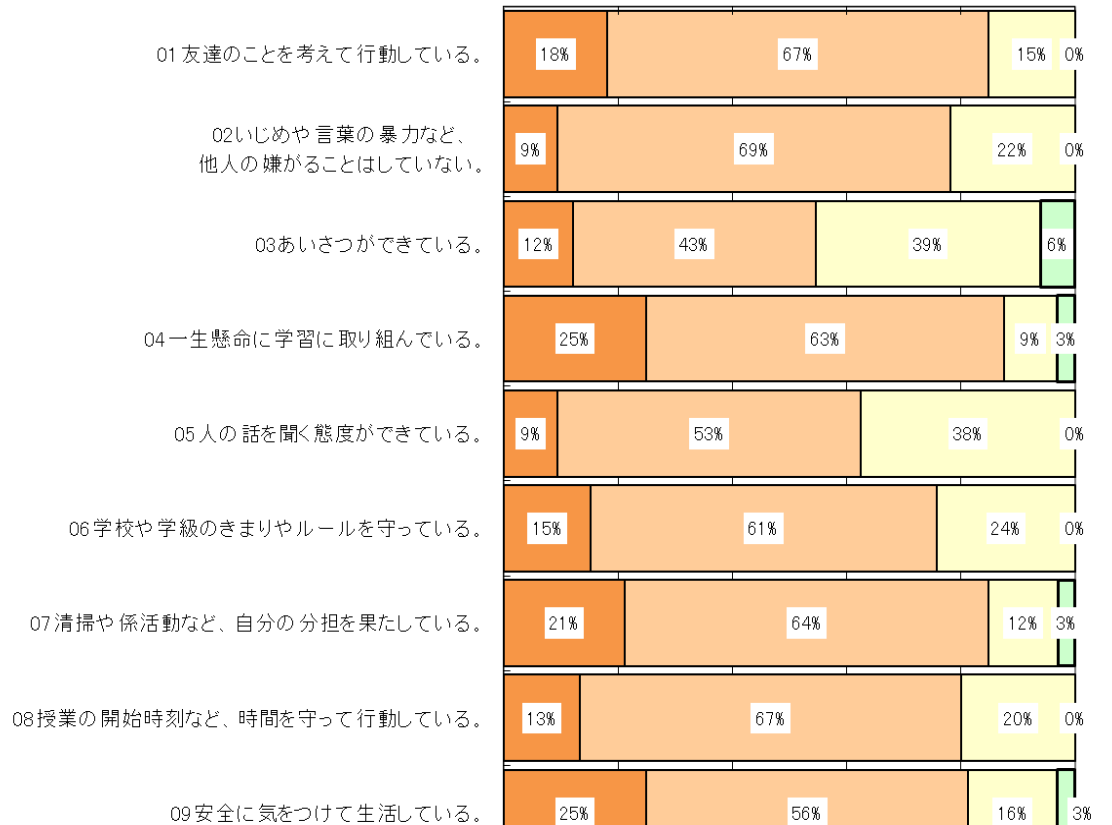
| No. | 設 問 | 4年度 | | 5年度 | | A評価の前年比 |
|---|--------------------------|-----|-----|-----|-----|---------|
| | | A | B | A | B | |
| 11 | 家で、宿題など家庭学習にしっかり取り組んでいる。 | A | B | A | B | +5 △ |
| | | 85% | 15% | 90% | 10% | |
| <p>肯定的な回答は、昨年度より5ポイント増加している。家庭での協力もあり、家庭学習の習慣化が図られつつある。</p> <p>学習内容の定着を図り、学力を向上させていくには、日々の授業を充実させることはもちろんであるが、家庭学習による予習や復習も欠かせない。学校では、低学年より毎日宿題を出し、高学年での自主的な家庭学習へとつなげようと努力している。家庭学習の更なる習慣化のために、引き続き家庭での協力をお願いしたい。</p> | | | | | | |

令和5年度 職員アンケート

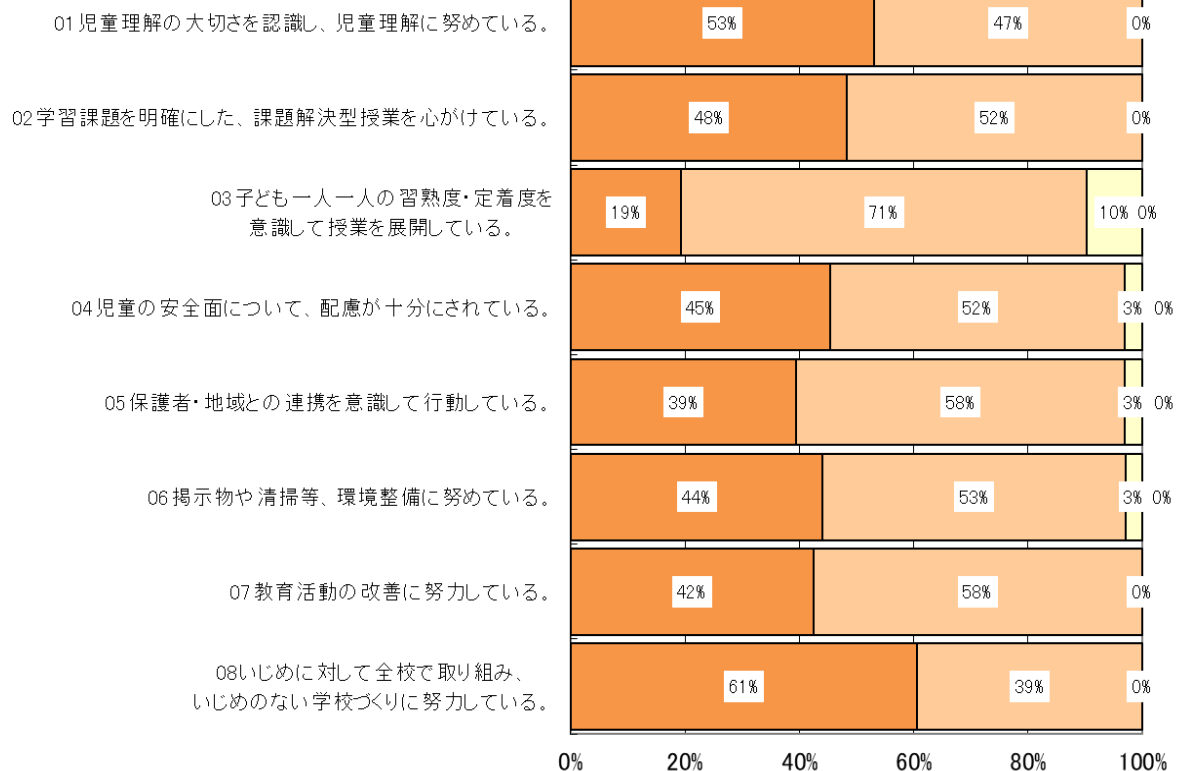
令和5年12月4日実施 回収 33 回収率 100%

【児童】

■ そう思う □ ややそう思う □ あまりそう思わない □ そう思わない



【学校】



令和5年度 教職員アンケート考察

△上昇 ▼下降

A (そう思う・ややそう思う) B (あまりそう思わない・そう思わない)

(1) 児童について

| No. | 設 問 | 4年度 | | 5年度 | | A評価の前年比 |
|-----|------------------|-----|----|-----|-----|---------|
| | | A | B | A | B | |
| 1 | 友達のことを考えて行動している。 | 94% | 6% | 85% | 15% | -9 ▼ |

肯定的な回答が昨年度より9ポイント減少している。関連項目である児童アンケート(生活)の設問1「友達と助け合い仲良く生活をしている」の肯定的な回答は96%であり、児童との間に大きな開きがある。

児童の中には自分本位に物事を考え、友達の気持ちを顧みない言動をする児童も見られるのが現状である。

自分の言動を振り返らせるとともに、日常的にも言葉遣いを中心に、人を思いやる態度が身に付くように注意深く指導していきたい。

| No. | 設 問 | 4年度 | | 5年度 | | A評価の前年比 |
|-----|-----------------------------|-----|-----|-----|-----|---------|
| | | A | B | A | B | |
| 2 | いじめや言葉の暴力など、他人の嫌がることはしていない。 | 81% | 19% | 78% | 22% | -3 ▼ |

肯定的な回答は、昨年度より3ポイント減少している。約2割が否定的な回答をしていることから、指導が十分ではないと感じている教職員が多いことが読み取れる。

学校では、「いじめ」は絶対にしてはいけないことを日々指導し、毎日の児童観察や毎月の学校生活アンケート、そしてそれに付随する面談等を通して、早期発見・早期解決に努めている。法に示される「いじめ」の定義に基づき、積極的に認知をした結果と捉えることもできるが、いじめや言葉の暴力など、他人の嫌がることをしている者がいるという現実強く受け止め、改善を図る必要がある。

そのためには、学級経営をより一層充実させるとともに、教職員が児童一人一人の様子の変化に注意を払い、児童がいつでも相談できる雰囲気づくりに努め、訴えや変化に迅速に対応していくことが今後も必要である。また、道徳の時間を中心に、すべての教科・領域等において思いやりの心を育む指導を重ねていくことが重要である。

| No. | 設 問 | 4年度 | | 5年度 | | A評価の前年比 |
|-----|--------------|-----|-----|-----|-----|---------|
| | | A | B | A | B | |
| 3 | あいさつができています。 | 45% | 55% | 55% | 45% | +10 △ |

本校の目指す児童像として「進んであいさつができる子ども」を挙げ、教職員があらゆる機会を通じて指導している。肯定的な回答は、昨年度より10ポイント増加しているが、他の設問と比較しても肯定的な回答が低い項目であり、本校の大きな課題の一つとなっている。

このような実態を解消する一つ的手段として、教職員や生活委員会、代表委員会による「朝のあいさつ運動」に加え、よいあいさつをしている児童を学級のみではなく、学校全体に紹介し、称賛する取組を実施している。これにより、称賛された児童はこれまで以上に、また、他の児童も影響を受けてよいあいさつをしようという雰囲気が出てきている。

あいさつは強制されるものではないが、人と人をつなぐ大切な言葉かけである。その意義を確認し、保護者・地域の方の協力のもと、進んであいさつをできるようにしていきたい。

| No. | 設 問 | 4年度 | | 5年度 | | A評価の前年比 |
|-----|------------------|------|----|-----|-----|---------|
| | | A | B | A | B | |
| 4 | 一生懸命に学習に取り組んでいる。 | 100% | 0% | 88% | 12% | -12 ▼ |

肯定的な回答は、昨年度より12ポイント減少している。全教員が学習指導要領に示されている「主体的・対話的で深い学び」の実現に向け、絶え間ない授業改善に取り組んでいく必要がある。学習する上での約束を徹底し、児童一人一人が学ぶ楽しさを実感できるような指導方法の工夫を心がけるとともに、学習支援の必要な児童への個別指導も行うことで、より一層学力向上に努めていきたい。

| No. | 設 問 | 4年度 | | 5年度 | | A評価の前年比 |
|-----|------------------|-----|-----|-----|-----|---------|
| | | A | B | A | B | |
| 5 | 人の話を聞く態度ができています。 | 84% | 16% | 62% | 38% | -22 ▼ |

肯定的な回答は、昨年度より22ポイント減少している。児童の肯定的な回答は95%であり、職員との間に大きな開きがある。

職員が「人の話は目で聞く」を共通理解し、引き続き指導を進めていく必要がある。話をしっかりと聞くことは、学習面でも生活面でも、最も基本的なことである。特に「対話的な学び」をしていく上では、相手の話を聞けることが前提となる。諦めない繰り返しの指導をしていきたい。

| No. | 設 問 | 4年度 | | 5年度 | | A評価の前年比 |
|-----|----------------------|-----|----|-----|-----|---------|
| | | A | B | A | B | |
| 6 | 学校や学級のきまりやルールを守っている。 | 94% | 6% | 76% | 24% | -18 ▼ |

肯定的な回答は、昨年度より18ポイント減少している。多く児童がルールを守って生活している反面、ルールを守れない児童も複数いるのが現状である。本来見本になるべき高学年においても、ルールを守っていない場面を見かけるため、その状況を当たり前としない徹底した指導、そして教職員が共通認識をもち、指導をしていくことが大切である。

社会で主体的に判断し、適切に行動できる人間を育てるためには、基本的な生活習慣と規範意識の確立の指導を、発達段階に応じて行うことが大切である。これらの指導は、教育活動全体で行うものであり、その核として最も重要であることは、道徳の時間の充実であると考えている。発達段階でどんな態度を身に付けさせたいかを教職員が協議し、めあてを明確にして実践していくようにしたい。

| No. | 設 問 | 4年度 | | 5年度 | | A評価の前年比 |
|-----|------------------------|-----|----|-----|-----|---------|
| | | A | B | A | B | |
| 7 | 清掃や係活動など、自分の分担を果たしている。 | 91% | 9% | 85% | 15% | -6 ▼ |

肯定的な回答は昨年度より6ポイント減少している。教職員が児童の頑張る姿を認め、励ましたり褒めたりすることで、児童自身に充実感や達成感をもたせていることが、よりよい方向につながっているものと考えている。引き続き、児童にプラスのメッセージを送っていきたい。

清掃については、個人差が大きく、細かく指示をしないと取り組めない児童も見られる。開始及び終了の時刻を守ることはもちろん、より具体的な目標をもたせることや、掃除の仕方をしっかりと教えることが大切であると考えている。

| No. | 設 問 | 4年度 | | 5年度 | | A評価の前年比 |
|---|-------------------------|-----|-----|-----|-----|---------|
| | | A | B | A | B | |
| 8 | 授業の開始時刻など、時間を守って行動している。 | 80% | 20% | 80% | 20% | ±0 = |
| <p>肯定的な回答は、昨年度とほぼ同じである。日常生活から5分前行動を意識して行動できるように声をかけていきたい。また、教職員自身も時間が守れないこともあるため、時間どおりに授業を始め、時間どおりに終わるようにしていくことで、児童の時間に対する意識も変容していくと考える。生徒指導上の問題や、児童の体調悪化等、急遽対応しなくてはならないこともあるが、可能な限り時間を守って取り組めるよう、引き続き心がけていきたい。</p> | | | | | | |

| No. | 設 問 | 4年度 | | 5年度 | | A評価の前年比 |
|--|-----------------|-----|-----|-----|-----|---------|
| | | A | B | A | B | |
| 9 | 安全に気をつけて生活している。 | 84% | 16% | 81% | 19% | -3 ▼ |
| <p>日々の指導はもとより、登校時の学校支援ボランティア等の協力や、下校時の安全指導、パトロールなどの取組を行っているところだが、それでも、一部であるが、登下校時に危険な歩行についての指摘が地域よりある。</p> <p>また、校内でも移動時に走ったり、教室内でふざけ合ったりしている姿が見られ、それが原因でケガをすることもあるなど、大変危険である。事故防止に向け、学校内外での危険な行動と、それに伴い生じる事故について、繰り返しの指導が必要である。</p> | | | | | | |

(2) 学校について

| No. | 設 問 | 4年度 | | 5年度 | | A評価の前年比 |
|--|--------------------------|------|----|------|----|---------|
| | | A | B | A | B | |
| 1 | 児童理解の大切さを認識し、児童理解に努めている。 | 100% | 0% | 100% | 0% | ±0 = |
| <p>教育を行う上で、児童理解に努めることは必要不可欠である。とは言っても、日常の観察だけでは見えてこない面もある。そこで、学校生活アンケートを毎月実施し、その後面談を行うことで、児童の気持ちの把握に努めている。</p> <p>また、Q-Uテストを実施し、個々の児童と集団の実態把握を行い、結果を基に学級経営を考えていくようにした。さらに、月1回サポート会議（生徒指導委員会）を開催し、児童の実態や全体の課題について共通理解を図るようにした。他にも個別支援会議等、問題が生じた際、教職員間で連絡を取り合い、情報を共有した上で対処を検討する場をもっている。今後も、日頃から何でも話し、協力し合える教職員組織でありたい。</p> | | | | | | |

| No. | 設 問 | 4年度 | | 5年度 | | A評価の前年比 |
|---|----------------------------|------|----|------|----|---------|
| | | A | B | A | B | |
| 2 | 学習課題を明確にした、課題解決型授業を心がけている。 | 100% | 0% | 100% | 0% | ±0 = |
| <p>授業を行う上で、全教員が重点として取り組むべき項目である。児童が本時に学習すべき課題は何であるかを明確に捉えた後、一人で考えたり、時にはペアやグループで、さらには全員で学び合いながら解決をしたりしていく中で、わかる喜びを味わうことができる授業を目指して日々努力している。</p> <p>自ら学び自ら考える力を養うには、教員が教材の理解を深めた上で、児童に学習規律や学び方を身に付けさせながら指導を進めていくことが大切である。本校は、若手の教員も多いが、定期的に勉強会を開催するなど、日々指導力向上に努めている。今後も授業研究を校内研修に位置付け、全教員で授業力向上に向けて取り組んでいきたい。</p> | | | | | | |

| No. | 設 問 | 4年度 | | 5年度 | | A評価の前年比 |
|--|--------------------------------|-----|----|-----|-----|---------|
| | | A | B | A | B | |
| 3 | 子ども一人一人の習熟度・定着度を意識して授業を展開している。 | 97% | 3% | 90% | 10% | -7 ▼ |
| <p>算数科ではT Tの指導体制をとり、個別指導に力を入れていくことで、成果をあげつつある。今年度、高学年の算数科を中心に、複数の教員による授業を実施することができている。</p> <p>一方、算数科以外の教科においては、T Tでの授業体制を組むことができないため、個への対応が十分にできていないと感じる教員もいる。そのような状況の中でも、習熟度の低い児童が少しでもできるようになるよう、また達成感や充実感を味わうことができるよう、効果的な個に応じた指導のあり方について、校内研修で課題として取り上げ、授業の見直しとともに検討していきたい。</p> | | | | | | |

| No. | 設 問 | 4年度 | | 5年度 | | A評価の前年比 |
|--|-------------------------|------|----|-----|----|---------|
| | | A | B | A | B | |
| 4 | 児童の安全面について、配慮が十分にされている。 | 100% | 0% | 97% | 3% | -3 ▼ |
| <p>交通安全指導については、各学級での日常の指導をしっかりと行っている。登校支援ボランティアの方々が、毎朝危険箇所それぞれ見守ってくださっていて、大変ありがたい。</p> <p>生活安全については、施設・設備の瑕疵（かし）がないことは絶対であるため、複数の目での点検を行っていく。また、児童には危険を予測し回避する能力を育てる指導を実施する必要がある。教職員は、事例から学び、起こりかねない様々な危機を想定し、事故につなげない・回避する資質・能力を養いたい。</p> | | | | | | |

| No. | 設 問 | 4年度 | | 5年度 | | A評価の前年比 |
|---|------------------------|------|----|-----|----|---------|
| | | A | B | A | B | |
| 5 | 保護者・地域との連携を意識して行動している。 | 100% | 0% | 97% | 3% | -3 ▼ |
| <p>ほとんどの教職員が肯定的な回答をしている。児童のよりよい成長を促すには、保護者との連携が不可欠である。そのためには学校と保護者との間で信頼関係を構築する必要がある。保護者は、児童の学校での様子を知りたいと常々思っている。教育相談時に限らず、「いつでも相談してください」というスタンスであることが必要である。これは地域についても同様である。様々な面で学校教育や児童の安全等に協力いただいている地域の方々の声を真摯に受け止めていきたい。</p> | | | | | | |

| No. | 設 問 | 4年度 | | 5年度 | | A評価の前年比 |
|---|---------------------|-----|----|-----|----|---------|
| | | A | B | A | B | |
| 6 | 掲示物や清掃等、環境整備に努めている。 | 97% | 3% | 97% | 3% | ±0 = |
| <p>清掃については、「環境が人をつくり、人が環境をつくる」の意識のもと、職員自らが率先垂範して取り組んでおり、児童も清掃を一生懸命に行う様子が見られる。そのため、多くの場所が清潔に整えられているが、手が届いていない場所も見られる。担当者による児童への細かな指示と点検がないと、児童はできていないことが理解できていないので改善されない。引き続き、清掃指導の充実を図りたい。</p> <p>校舎内外の修繕や整備が必要な箇所については、可能な限り行っているが、予算も限られているため、まだまだ改善が必要な箇所がある。町教育委員会にも引き続き要望していく。</p> | | | | | | |

| No. | 設 問 | 4年度 | | 5年度 | | A評価の前年比 |
|-----|-----------------|-----|----|------|----|---------|
| | | A | B | A | B | |
| 7 | 教育活動の改善に努力している。 | 97% | 3% | 100% | 0% | +3 △ |

職員は、担当する分掌はもちろん、関わる教育活動について、真摯に考え改善に取り組んでいる。基本的なことであるが、PDCAを大切に、「改善」を常に意識した指導と職務の遂行に努力したい。業務を見直し、効率化できるところは行い、より一層効果的な教育活動を推進していく必要がある。そのためにも職員間で自由に対話できる雰囲気をつくっていききたい。

| No. | 設 問 | 4年度 | | 5年度 | | A評価の前年比 |
|-----|------------------------------------|-----|----|------|----|---------|
| | | A | B | A | B | |
| 8 | いじめに対して全校で取り組み、いじめのない学校づくりに努力している。 | 97% | 3% | 100% | 0% | +3 △ |

本校では「いじめ防止基本方針」を制定し、「いじめの未然防止」、「いじめの早期発見」、「いじめへの早急な対応」について全職員が共通理解を図り、組織的に対応している。「いじめの未然防止」については、学級経営や道徳教育、一人一人を大切にしたいわかる授業の充実に努めている。また、「いじめの早期発見」については、学校生活アンケートなどを活用し、積極的に児童理解に努めるとともに、教職員間の情報交換も意識して行っている。「いじめへの早急な対応」についても、学級担任だけでなく、学年や学校組織を挙げての対応に心がけている。

「いじめ」とはどのようなものなのかを児童に丁寧に伝えてはいるが、友達の嫌がることをしてしまう児童もあり、その都度、教職員が指導している。また、「いじめゼロキャンペーン」を実施したり、道徳をはじめとする全教育活動を通していじめ防止の心を育てたりするなど、子どもの心を育てる教育を推進している。今後ともいじめのない学校づくりのために努力していく。

令和5年度 保護者・児童・教職員アンケートの比較

* グラフ内数値の単位：%

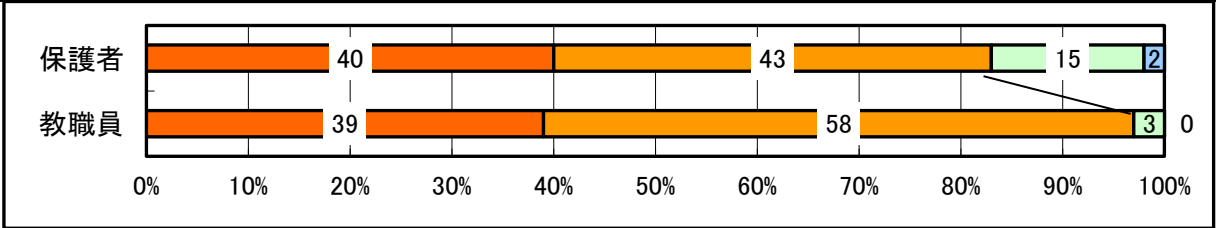
令和5年12月6日実施 一宮小学校

| | 児童 462人 | 保護者 251人 | 教職員 33人 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
|----------|---|---------------------|-------------------------------|----------------|-------------|-------------------|----------------|-------------|----|----|----|----|---|-----|----|----|----|---|-----|----|----|----|---|
| | ⑤先生や友達に進んであいさつをしている。 | ③お子さんはあいさつができています。 | ③あいさつができています。 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | <p>■4(あてはまる) ■3(どちらかといえばあてはまる) □2(あまりあてはまらない) □1(あてはまらない)</p> <table border="1"> <caption>Item 5: Greeting</caption> <thead> <tr> <th>Category</th> <th>4 (あてはまる)</th> <th>3 (どちらかといえばあてはまる)</th> <th>2 (あまりあてはまらない)</th> <th>1 (あてはまらない)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>児童</td> <td>52</td> <td>36</td> <td>10</td> <td>2</td> </tr> <tr> <td>保護者</td> <td>35</td> <td>49</td> <td>15</td> <td>1</td> </tr> <tr> <td>教職員</td> <td>12</td> <td>43</td> <td>39</td> <td>6</td> </tr> </tbody> </table> | | | Category | 4 (あてはまる) | 3 (どちらかといえばあてはまる) | 2 (あまりあてはまらない) | 1 (あてはまらない) | 児童 | 52 | 36 | 10 | 2 | 保護者 | 35 | 49 | 15 | 1 | 教職員 | 12 | 43 | 39 | 6 |
| Category | 4 (あてはまる) | 3 (どちらかといえばあてはまる) | 2 (あまりあてはまらない) | 1 (あてはまらない) | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 児童 | 52 | 36 | 10 | 2 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 保護者 | 35 | 49 | 15 | 1 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 教職員 | 12 | 43 | 39 | 6 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | ②いじめや言葉の暴力など、他人のいやがることはしない。 | | ②いじめや言葉の暴力など、他人のいやがることはしていない。 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | <table border="1"> <caption>Item 2: Bullying</caption> <thead> <tr> <th>Category</th> <th>4 (あてはまる)</th> <th>3 (どちらかといえばあてはまる)</th> <th>2 (あまりあてはまらない)</th> <th>1 (あてはまらない)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>児童</td> <td>63</td> <td>25</td> <td>8</td> <td>4</td> </tr> <tr> <td>教職員</td> <td>9</td> <td>69</td> <td>22</td> <td>0</td> </tr> </tbody> </table> | | | Category | 4 (あてはまる) | 3 (どちらかといえばあてはまる) | 2 (あまりあてはまらない) | 1 (あてはまらない) | 児童 | 63 | 25 | 8 | 4 | 教職員 | 9 | 69 | 22 | 0 | | | | | |
| Category | 4 (あてはまる) | 3 (どちらかといえばあてはまる) | 2 (あまりあてはまらない) | 1 (あてはまらない) | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 児童 | 63 | 25 | 8 | 4 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 教職員 | 9 | 69 | 22 | 0 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 児童 | ①友達と助け合い仲良く生活している。 | ②お子さんは友達と仲良く過ごしている。 | ①友達のことを考えて行動している。 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | <table border="1"> <caption>Item 1: Helping Friends</caption> <thead> <tr> <th>Category</th> <th>4 (あてはまる)</th> <th>3 (どちらかといえばあてはまる)</th> <th>2 (あまりあてはまらない)</th> <th>1 (あてはまらない)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>児童</td> <td>62</td> <td>34</td> <td>3</td> <td>1</td> </tr> <tr> <td>保護者</td> <td>58</td> <td>38</td> <td>4</td> <td>0</td> </tr> <tr> <td>教職員</td> <td>15</td> <td>67</td> <td>15</td> <td>0</td> </tr> </tbody> </table> | | | Category | 4 (あてはまる) | 3 (どちらかといえばあてはまる) | 2 (あまりあてはまらない) | 1 (あてはまらない) | 児童 | 62 | 34 | 3 | 1 | 保護者 | 58 | 38 | 4 | 0 | 教職員 | 15 | 67 | 15 | 0 |
| | Category | 4 (あてはまる) | 3 (どちらかといえばあてはまる) | 2 (あまりあてはまらない) | 1 (あてはまらない) | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 児童 | 62 | 34 | 3 | 1 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 保護者 | 58 | 38 | 4 | 0 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 教職員 | 15 | 67 | 15 | 0 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | ⑧学校や学級のきまりやルールを守っている。 | | ⑥学校や学級のきまりやルールを守っている。 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | <table border="1"> <caption>Item 8: School Rules</caption> <thead> <tr> <th>Category</th> <th>4 (あてはまる)</th> <th>3 (どちらかといえばあてはまる)</th> <th>2 (あまりあてはまらない)</th> <th>1 (あてはまらない)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>児童</td> <td>56</td> <td>37</td> <td>6</td> <td>1</td> </tr> <tr> <td>教職員</td> <td>15</td> <td>61</td> <td>24</td> <td>0</td> </tr> </tbody> </table> | | | Category | 4 (あてはまる) | 3 (どちらかといえばあてはまる) | 2 (あまりあてはまらない) | 1 (あてはまらない) | 児童 | 56 | 37 | 6 | 1 | 教職員 | 15 | 61 | 24 | 0 | | | | | |
| Category | 4 (あてはまる) | 3 (どちらかといえばあてはまる) | 2 (あまりあてはまらない) | 1 (あてはまらない) | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 児童 | 56 | 37 | 6 | 1 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 教職員 | 15 | 61 | 24 | 0 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | ⑩係や当番の仕事を、しっかりと行っている。 | | ⑦清掃や係活動など、自分の分担を果たしている。 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | <table border="1"> <caption>Item 10: Duties</caption> <thead> <tr> <th>Category</th> <th>4 (あてはまる)</th> <th>3 (どちらかといえばあてはまる)</th> <th>2 (あまりあてはまらない)</th> <th>1 (あてはまらない)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>児童</td> <td>74</td> <td>21</td> <td>4</td> <td>1</td> </tr> <tr> <td>教職員</td> <td>21</td> <td>64</td> <td>12</td> <td>3</td> </tr> </tbody> </table> | | | Category | 4 (あてはまる) | 3 (どちらかといえばあてはまる) | 2 (あまりあてはまらない) | 1 (あてはまらない) | 児童 | 74 | 21 | 4 | 1 | 教職員 | 21 | 64 | 12 | 3 | | | | | |
| Category | 4 (あてはまる) | 3 (どちらかといえばあてはまる) | 2 (あまりあてはまらない) | 1 (あてはまらない) | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 児童 | 74 | 21 | 4 | 1 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 教職員 | 21 | 64 | 12 | 3 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |

| | | |
|--------------------------------------|--------------------------------|-----------------------------|
| ⑨授業の始まる時間など、時間を守っている。 | | ⑧授業の開始時刻など、時間を守って行動している。 |
| | | |
| ⑥先生や友達の話に目を向けて話が聞けている。 | ⑥お子さんは家の人や担任の話をしっかり聞けている。 | ⑤人の話を聞く態度ができています。 |
| | | |
| ⑪家で、宿題など家庭学習にしっかり取り組んでいる。 | ⑤お子さんは宿題をやるなど、家庭学習の習慣が身に付いている。 | |
| | | |
| ⑧学校の授業は楽しくわかりやすい。 | ④本校は、子どもの学力を伸ばそうと努力している。 | ②学習課題を明確にした、課題解決型授業を心がけている。 |
| | | |
| ⑧本校は事故防止に努め、子どもの安全についての指導や取り組みをしている。 | ④児童の安全面について配慮が十分にされている。 | |
| | | |

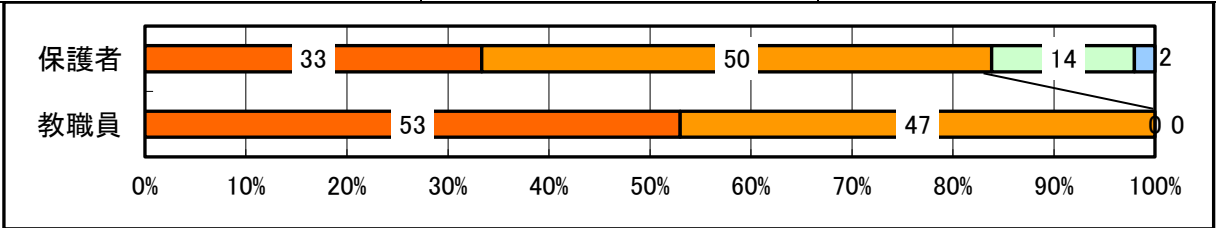
⑪本校は、各種たよりやホームページ等で、学校の様子を保護者や地域に伝えようと努力している。

⑤保護者や地域との連携を意識して行動している。



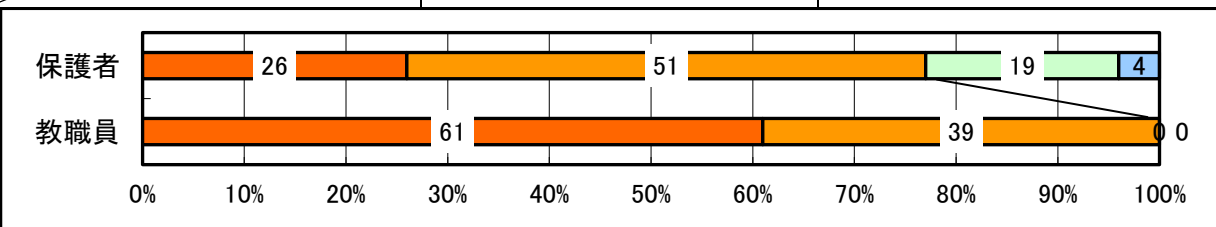
⑦本校は、担任等職員が子どもの相談に誠実に応じている。

①児童理解の大切さを認識し、児童理解に努めている。



⑫本校は、いじめに対して全校で取り組み、いじめのない学校づくりに努力している。

⑧いじめに対して全力で取り組み、いじめのない学校づくりに努力している。



令和5年度 一宮小学校学校関係者評価

【学校が記入】 ①評価項目 ②自己評定 A～Dで記入 ③自己評定説明
 【学校評議員・PTA会長が記入】 ①外部評定 A～Dで記入 ②外部評定説明

〈評定基準〉

- A＝大変よい・・・・・・・・ 適切な取組がなされていて、高い水準である。
- B＝よい・・・・・・・・ 適切な取組がなされていて、満足できる水準である。
- C＝課題がある・・・・・・・・ 取り組んでいるが、満足できる成果が見られない。
- D＝かなり課題がある・・・ 取組が不十分で、成果がほとんどあがっていない。

* 自己評定欄の本校データは、学校評価アンケート（保護者）の肯定的な回答の割合

1 生活面

| No. | 評価項目 | 自己評定 | 自己評定説明 | 外部評定 | 外部評定説明 |
|-----|------------------------------------|--------------------|--|------|---|
| 1 | お子さんは、友達と仲良く過ごしている。 | A 本校 96% | 職員は日々行われる様々な教育活動を通して、友達と協力して仲良く過ごせる学級・学校の雰囲気づくりに努めた。 日々の観察による児童への声かけや、2か月に一回実施している生活アンケート、また児童・保護者との教育相談等により、問題に対する早期発見・早期対応に努めた。 | A | 学校の指導の成果が出ており良いと思う。引き続き、一人一人の児童を多角的な視点でみてほしい。 学校は適切に取り組んでいると思う。子どもたち一人一人に目を向けているため、100%ではないけれど、学校が楽しいと思っけて登校していると思う。 |
| 2 | 本校は、事故防止に努め、子どもの安全についての指導や取組をしている。 | A 本校 87% | 登校時には、職員の街頭指導、PTAやボランティアの方々による交通指導を受けながらの集団登校を実施するなど、安全に配慮した。 下校時の集団下校・学年下校では、職員によるパトロールを実施している。 地区児童会において、普段の登下校の振り返りを行ったり、交通安全や不審者対策について確認したりしている。 | A | 安全配慮の義務は学校に課された最も大切な事項である。引き続き、取組をお願いしたい。 地域の方々と密接に協力体制ができていると思う。学校だけでなく、町全体で子どもたちの安全を見守る活動を継続的に行っていきたい。 |

| | | | | | |
|--|--|--|---|--|--|
| | | | 児童の怪我等の防止については、あらかじめ危険を予測した上で、校内外における活動の仕方や過ごし方について、細心の注意を払った指導を心がけた。 | | |
|--|--|--|---|--|--|

2 学習面

| No. | 評価項目 | 自己評定 | 自己評定説明 | 外部評定 | 外部評定説明 |
|-----|-------------------------------|----------------|--|------|--|
| 3 | 本校は、子どもの学力を伸ばそうと努力している。 | B 本校 72% | 外部講師による授業づくりの研修を4回実施し、児童が自ら考えたり、他者と関わったりする中で、わかる喜びを味わわせる授業を目指して取り組んできた。 また、少人数指導担当教員の活用等により、児童の学力向上に向けたきめ細やかな指導に心がけた。 「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善を通して、学力向上を図っていききたい。 | B | 「継続は力なり」、引き続きの指導をお願いしたい。 前年度と比較して、4%下がっているが、外部講師の授業など、児童が興味をもつことが大切だと思う。 児童アンケートの生活面に比べて、学習の「そう思う」の割合がだいぶ低いことから、学習面に関しては、学校の取組が児童に浸透していないように思う。 児童アンケート(学習)の設問10の「そう思う」の割合が低いことが気になる。 |
| 4 | お子さんは宿題をやるなど、家庭学習の習慣が身に付いている。 | B 本校 78% | 家庭学習の習慣化については、学年に応じた学習時間の目安「学年×15分」を示し、学年ごとに宿題内容を吟味し、習慣化を図ってきた。 | B | 個々の家庭状況に応じた対応をしていただきたい。 何のために宿題や自主学習をするのか目的を明確にし、達成した場合には家庭でも褒めることが大切だと思う。 「宿題+自主学習」が理想だと思うが、宿題だけで終わっているのが実状ではないか。低・中学年は宿題だけで「学年×1 |

| | | | | | |
|--|--|--|--|--|-----------------|
| | | | | | 5分」の量に調整してはどうか。 |
|--|--|--|--|--|-----------------|

3 家庭・地域との連携

| No. | 評価項目 | 自己評定 | 自己評定説明 | 外部評定 | 外部評定説明 |
|-----|--|----------------|---|------|---|
| 5 | 本校は、家庭との連絡や連携に努力している。 | A 本校 87% | <p>各種たよりや連絡帳等を活用し、日頃から本校の教育活動への理解を求めてきた。</p> <p>また、学校での怪我やトラブル、心配事については、電話や家庭訪問、面談等をきめ細やかに行うようにしてきた。</p> <p>保護者が相談しやすい雰囲気づくりや、誠実な対応に努力してきた。</p> | A | <p>家庭と学校との信頼関係を構築するため、今後も「開かれた学校」を継続してほしい。</p> <p>先生方の親身な対応により学校での状況を教えていただけていると思う。</p> |
| 6 | 本校は、各種たよりやホームページ等で、学校の様子を保護者や地域に伝えようとしている。 | A 本校 83% | <p>学校だよりや学年だよりの定期発行、学校ホームページの毎日更新等により、学校の様子を保護者や地域の方たちに伝えてきた。</p> <p>不審者情報や災害時の対応等、緊急性のあるものについては、安全・安心メールを使い、いち早く情報提供に努めた。</p> | A | <p>いろいろな手段で発信していただき、とてもありがたい。</p> <p>いつ起きてもおかしくない地震や災害などでは、メールやSNSで情報を共有して行ってほしい。</p> |